

日 時：令和6年7月26日(金) 14:00～15:30

場 所：戸田地区センター 大会議室

資 料：次第、資料1-1、資料1-2、  
資料2-1、資料2-2、資料2-3

## 1 開会

## 2 議事

### 令和5年度の実績評価

事務局より、基本目標及び事業進捗（資料1-1、1-2、2-1、2-2、2-3）について説明

#### 【委員からの意見の概要】

- ・ 観光交流客数について、コロナ禍が過ぎ、全国的に観光交流客数は戻っている傾向であるが、資料1-1を確認すると戸田は戻り方が弱く見える。  
→（政策企画課：回答）コロナ禍に中止したイベントが、現在も中止のままである点が挙げられる。宿泊施設利用者はコロナ禍以前程度には回復しているが、観光施設利用者数が伸び悩んでいる。
  
- ・ 移住してきた人を見ていると、釣り好きの年配の人が移住している印象がある。  
→（政策企画課：回答）転入超過者数（資料1-2）によると、50歳代男性が一番多く6人となっている。次点で40歳代男性が3人となっている。移住者として多い傾向は確認でき、移住理由の一つかもしれない。
  
- ・ 地域おこし協力隊は戸田地区限定で行っているものなのか。  
→（政策企画課：回答）地域おこし協力隊は3年を任期としている。沼津市全体では3名の方に活動をしていただいております、そのうちの1名の方に戸田地区の専属として活動をしていただいております。
  
- ・ 移住者を増やすためには『戸田は良いぞ』と思ってもらえるような、目に見える施策が必要である。
  
- ・ 戸田はとにかく交通の便が悪い。支援もあるが、100%ではない。最近はコンビニエンスストアができたのでまだいいが、スーパー等が乏しく買い物が大変である。また、子どもの高等学校進学に合わせて戸田地区外に居住するケースが多くある。特に、子育て世帯は、部活動をやっている子どもの送迎を戸田からするのは大変である。

- 昔は下宿先が数多く存在したので困ることはなかった。
- 築50年以上の造船郷土資料博物館の建替えについて、地元住民は関心を寄せている。
- 戸田の観光については、調べてもなかなか出てこないといったこともある。そういったPR面は大事である。PRは組織的に行うと良い。
- 移住者を増やすのはもちろん大事なことであるが、どうしても人口は減っていくので、そういったことも勘案しつつ、交流人口をいかに増やしていくか、そしてそこからどう移住に繋げていくかということが大切である。
- 移住してきた若い人たちが戸田を良くしようと活動しているのを目にする。実際に会って話すと、自分たちとは良い意味で全く違う思考をしていると感じた。
- 今後とも継続的にこういった検討の場を設けられたら良い。

### 3 閉会